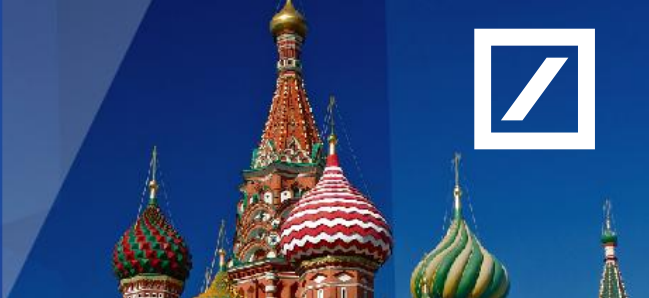




COLUMN

投資環境資料



社団法人ロシアNIS貿易会・ロシアNIS経済研究所 次長

服部 倫卓

ベールを脱いだロシア版シリコンバレー

イノベーション経済をめざして

ロシアのメドヴェージェフ大統領は9月28日、連邦法「イノベーション・センター『スコルコヴォ』について」に署名し、同法が成立しました。「スコルコヴォ」とは、メドヴェージェフ大統領が2009年秋に打ち出したプロジェクトで、モスクワの西の近郊に位置するオジンツォヴォ地区にロシア版シリコンバレーを創設するという野心的な計画です。

このプロジェクトにも表れているように、今日のロシアでは「イノベーション」という言葉が経済政策上の最重要キーワードになっています。つまり、これまでのようなエネルギー・天然資源・素材産業への依存、重厚長大産業偏重を脱して、ハイテクかつ知識集約型の産業構造への転換をめざすというのが、現政権の政策路線の根幹になっているわけです。そして、その中核に位置付けられるものこそ、スコルコヴォに他なりません。

スコルコヴォ計画の概要

スコルコヴォは、現在はまだ更地にすぎません。これから、公的資金を投入して、一大ハイテクパークを建設することになっています。アメリカのシリコンバレーが自然発生的に成長したのに対し、ロシアの場合は言わば「上からのハイテクパークづくり」ということになります。

法律によれば、スコルコヴォでは、①エネルギー技術、②核技術、③宇宙技術、④医療技術、⑤コンピュータ技術という5つの分野の研究開発が推進されることになっています。ただ、スコルコヴォが単一のハイテクパークとして機能するというよりは、スコルコヴォが要となりロシア全体のハイテク産業をネットワーク化するというイメージのようです。つまり、ロシア各地で生み出された知財を商業化するショーウィンドウとしての役割、また外国のハイテク企業がロシアに進出する際に最初の拠点となるゲートウェイとしての役割が、スコルコヴォには期待されているわけです。

スコルコヴォの経営に当たることになっているのが、「スコルコヴォ開発財団」です。財団では、メドヴェージェフ大統領自らが名誉総裁の座に就いているほか、ロシアの大手財閥「レノヴァ」総帥のV.ヴェクセリベルグと前インテル会長のクレイグ・バレットの2人が共同理事長を務めています。さらに、2人のノーベル賞受賞者を含む25名から成る諮問・科学評議会も設置されています。

すでに、シーメンス、ノキア、シスコといった欧米の大手企業が、スコルコヴォへの入居に関心を示しているということです。

■レポートの作成・配信は

ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社